

## 第4分科会 小学校

# 地域素材を生かした教材の開発

～子どもたちの豊かな心の育成を目指して～

東川町立東川小学校 教諭 守屋 真奈美

### 1 はじめに

上川郡東川町は、農業を基幹産業とした人口約8400人の町である。近年「日本一の子育て・教育の町づくり」を掲げ、子育て支援施設や幼児センター、小学校4校、中学校1校、高等学校1校と充実した教育環境を整備し、未来を担う子どもたちへの教育に力を注いでいる町として注目を集めている。

また「写真の町宣言」を行い、毎年全国の高校生を対象とした『写真甲子園』を実施するなど、町を挙げて写真文化都市づくりを推進している。

本校の重点教育目標は『全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の具現化～子どもたちは、宝物～』を掲げ、この目標に向け全教職員が一丸となり取り組んでいる。また、道徳科の重点内容項目(図1)は、全学年において【内容項目B-(8)「礼儀」】を特に重点として設定し、礼儀を大切に考えることをとおして、子どもたちの豊かな心の育成に励んでいる。中学年では「礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接し、時と場に応じた挨拶をする。」を重点内容項目としている。

各学年の重点内容項目		
低学年	中学年	高学年
気持ちのよい大きな声での挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 B【礼儀】	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接し、時と場に応じた挨拶をする。 B【礼儀】	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接し、心のこもった挨拶をする。 B【礼儀】
友達と仲よく、助け合う。 B【友情、信頼】	友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 B【友情、信頼】	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていく。 B【友情、信頼】
自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行う。 B【希望と勇気、努力と責任】	<b>礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接し、時と場に応じた挨拶をする。</b> B【礼儀】	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことや文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際観望に努める。 C【国際理解、国際観望】
友達や身近にいる人に向かい心で接し、親切に接する。 B【親切、思いやり】	自分や相手の思いやりに応じて、思いやりを持って接する。 B【親切、思いやり】	個人や社会に奉仕することの意義を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをする。 C【勤労、公共の精神】

(図1 重点内容項目)

### 2 読み物資料の教材開発

#### (1) 児童の実態と読み物資料の教材開発

ここでは、子どもたちの豊かな心の育成を目指し昨年度実施した3年生の授業実践を基に読み物資料の教材開発について説明する。

学級の児童の実態として「自分から進んで挨拶をすることに苦手意識がある」児童が多いことに、3年生の発達段階として課題意識をもっていた。また、本校の重点項目にも「礼儀」の項目があることから、道徳科の時間を要として、挨拶を大切にすることの育成を図りたいと考えた。

ところが、教科書では「礼儀」の学習は年間で1時間の扱いであり、それに合わせ本校の年間指導計画別葉でも、4月に1時間の計画となっている。(図2)。

内容\月	4月	5月
主な学校行事	着任式 始業式 入学式 参観日 身体測定 知能検査(2・5年) 全国学力学習状況調査(6年) 自宅確認訪問 交通安全教室	避難訓練 給食班集会 全校給食開始 運動会特別日課開始
道徳 光村	1 よろしくギフト C(15)よりよい学校生活、集団生活の充実 2 あいさつ名人 ※※ B(8)礼儀 3 やめられない A(3)節度、節制	4 たった一言 A(1)善悪の判断、自律、自由と責任 5 道夫とぼく 正義 2 あいさつ名人 B(8)礼儀

(図2 別葉)

そこで、道徳の学習は教科用図書で指導することが前提ではあるものの、重点内容項目への取組を補完するために、新たな教材を開発し年間指導計画に明記する必要があると考えた。

#### (2) 教材の作成

教材の作成は「読み物資料」とした。上川管内道徳教育研究会では読み物資料を中心とした研究に取り組んでおり、その実践の場としたいと考えた。

また、多様な教材を生かした指導として、本町の特色でもある写真を柱とした文化都市に焦点を絞り、読み物資料を自作した。児童に自分の町のよさ（自然や人の温かさ、写真を柱とした文化都市）や地域とのつながりから、主人公の成長を基に挨拶のすばらしさを深く考えさせたいとの願いからである。

重点内容項目を深めさせるために、地元の身近な題材による教材開発には意義があるものと考えた。

### **（３）実施時期と年間指導計画の組織的な見直し**

本校の別葉に記載されている重点内容についての学習では、児童が４月に学ぶ内容として、相手に対する真心こそが一番重要であると示されている。（『あいさつ名人』）

既習の内容を一步進め、真心が相手の気持ちを明るくすることや、自分の心も変えること、そしてその尊さについて考えさせたいと考え、３学年の締めくくりである３月に授業を設定した。

子どもの育ちを見通した指導として今後へつなげていく意義があると考え、次年度の４年生で実施する総合的な学習の時間「写真ワークショップ」、社会科「わたしたちの県」を関連させた。実施時期や、地域と深く関わりのある学習を関連づけることにより、相乗効果があると判断したものである。

実施に当たっては教育課程編成委員会での必要性について吟味・相談し、年間指導計画に組み入れることとした。地域や学校の実態、及び児童の発達段階や特性等も考慮し、創意工夫を加えた。

## **３ 資料開発と作成の手順**

### **（１）ねらいと主題の設定**

児童の実態から、ねらいを「挨拶の大切さについて考え、誰に対しても真心をもって接しようとする心情を育てる」とした。主題名は「あいさつと心」とした。心のこもった挨拶には相手の心を変える力があり、挨拶と心の動きには深いつながりがあることについて改めて考えさせたい、という意図をもって設定した。

### **（２）テーマの設定**

「写真を中心とした文化都市」である本町の取組に焦点を当て、自分の住む地域のすばらしさに気付くことを通して道徳的価値を考えさせるために、テーマを児童になじみのある「写真」とした。文化を支える地元の人々と、写真甲子園に出場する高校生の成長を通してその行動や思いに自我関与させることにより、児童が自分の考えや道徳的価値を深めることができるようにしたいと考えた。

### **（３）情報収集・インタビュー**

東川町役場には「写真の町課」がある。東川町が写真の町宣言をするに至った経緯や、これまでの取組などのお話を聞き、資料づくりの構想を得た。その時対応してくださったのが、教材文の主人公となる吉里演子さんである。私は吉里さんの写真に懸ける熱意や、町に対する愛情に心を打たれた。このお話を基に、児童が挨拶のすばらしさについて考えられるよう願いながら教材文を作成した。

### **（４）自作教材の作成とそのよさとは**

作成に当たっては、吉里さんが一番大切にしている「町の人々との心のふれあいや笑顔を撮ることへの思い」を中心に据え、「主人公の気持ちが変化する場面」が山場となるよう設定した。また、児童が主人公の変容を読み取りながら道徳的価値について考えることができるよう、どのような中心発問や補助発問が効果的かを考えながら教材文を作成した。

一言の挨拶で気持ちが晴れた主人公の心情に、どうすれば児童が感情移入・自我関与できるか、児童が主人公の思いに迫れるようになるか…など、様々なことに悩みながら教材文の作成や授業の構想づくりに取り組んだ。

難しい作業であったが、授業者として期待する道徳的価値の深まりや児童の反応、目指す子ども像が次第に見え始め、授業をより深く理解することにつながったと考えている。

子どもたちに考えさせたい道徳的価値を基に授業の構想を練り、そのための教材を自ら創意工夫することができるなど、今回の取組により自作教材づくりのよさを感じることができた。

## (5) 読み物教材について

読み物資料による授業で大切なことは「児童がお話の世界に存分に浸り、まるで自分が主人公になったかのように」（横山利弘先生はこの状態を「主人公の着ぐるみを着て考える」と表現している）感情移入し、自我関与させることである。

そこには、教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めるねらいがある。その際に自我関与させるのは「登場人物の気持ち」ではなく、「登場人物にそのような行動をとらせた状況」である。

また、内容項目や教材、児童の実態等を考慮し「教材のどの部分に自我関与させるか」「教材のどこに問題を見いだすか」など、教師が教材を分析することが重要である。

登場人物への自我関与とは「教材中の登場人物に自分自身を投影させて考えること」であり「教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深めること」と捉えている。

## 4 授業実践より

### (1) 教材開発をした読み物資料のあらすじ

主人公のひろこは、写真甲子園に出場するために大阪から北海道東川町に降り立つ。当初は入賞するために写真を撮っていたひろこだったが、町の人々の温かさに触れ、入賞することにこだわっていた自分に違和感を覚えるようになる。

町民との生活を重ねる中で、人々との心の触れ合いから生まれた「住民の温かな笑顔の写真」を前に、ひろこは「自分が本当に撮りたかったものはこれだったのだ」ということに気付く。

挨拶の大切さや自分の心の変化を自覚したひろこは、人々との交流を深めながら、晴れやかな気持ちで撮影に取り組む。

## (2) 授業の展開

段階	主な学習活動
導入	○あいさつの必要性について考える（揺さぶり）
展開前半	○教材「すてきな写真」を読んで話し合う。 ○「お疲れ様」の一言で気分が晴れたときのひろこの思いを考える。
展開後半	○ <u>ひろこが撮りたかった「すてきな写真」とは何だったのか</u> を考える。 ○あいさつと心の関係について考えたことを基に、今後の自分の在り方について考える。
終末	○自分があいさつに込めたい思いや授業を通じて考えたことを、ワークシートにまとめる。

## (3) 中心発問について

児童が存分に自我関与するために重要な役割を果たすのが中心発問である。中心発問では「どのような思いで」「どのように考えて」など、主人公が心の深いところでどのような思いを抱いていたのかを考えさせることが必要である。本指導案ではそれを、

◎おばさんから「お疲れ様」と声をかけられ、目の前がぱあっと明るくなったときのひろこの思いを考えましょう。

とした。「どんな気持ちだったでしょう」ではなく「思いを考えましょう」としたのは、嬉しかった・悲しかったなどの表面的な心情のみを捉えさせるのではなく、主人公の内面を自分事として想像させたかったからである。

たった一言の挨拶が、主人公の心の奥底にどのような影響を与えたのか。「うれしい」「ありがとう」では表現しきれないほどの喜びや嬉しさを自分事として味わわせ共感させることで、挨拶には相手の心を変える力があることを捉えさせたいと願い授業を行った。

ワークシートからは、

- ・「おつかれさま」って言ってもらえただけなのに、こんなにいい気持ちになるんだ。びっくりした。
- ・一しゅんでひろこをしあわせな気持ちに

してあげて、あいさつってすごいと思った。

- ・わたしもあいさつをして、友だちを元気にしてあげたいです。もっと明るいクラスになるかも！ (原文のまま)

など、児童が挨拶について新たな気づきを得たり、挨拶が相手に与える影響について考えたりする姿を見取ることができた。

## 5 ICTの活用

本校ではICTの活用を研究の柱に据え、積極的な利活用を進めている。本授業で活用したICTは以下のとおりである。

### (1) mentimeter (メンチメーター)

導入部分の「挨拶で思い浮かぶ言葉は何ですか」の発問で使用した。

アンケート機能の代わりに児童の意見や回答を一瞬で視覚的に共有することができる。テーマに対する児童の興味・関心を高めることにも役立った。

### (2) ロイロノート

#### ①回答共有機能

「今後の自分の行動について考える」場面ではこれまでの自分を振り返ると同時に、今後の自分の行動について考えさせた。回答共有機能を利用することにより、他者の考えをつかむことが容易となり、様々な意見を多面的・多角的に考えることに役立てることができた。

#### ②ワークシート作成機能

画像等を貼り付けワークシートを作成し、児童のタブレットに送信した(図3)。①の機能により、他児が入力した文章を共有することもできるため、互いの気持ちを交流したり友達の意見に触れて考えたりすることに役立った。

イラストや吹き出し等を入れることにより、役割演技のように使うことも考えられる。



(図3) ロイロノートで作成したワークシート)

### (3) zoom (ズーム)

距離や時間等の制約により、ゲストティーチャー(以後GTと標記)の来校が難しい場合がある。GTと教室とを双方向につなぐことで児童が感銘を受けたり、興味や理解を深めたりするなど、これまでGTの活用において障壁となっていた様々な制約を取り除くことが可能となる。終末ではこの機能を利用し、教材文の主人公である吉里さんからお話を伺う計画にした。実際の授業では、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着き吉里さんの都合も付いたため来校をいただき、当時の気持ちや挨拶に対する思いを、直接伺うことができた。

## 6 おわりに

道徳科の学習は、毎時間の授業を通して水が一滴一滴しみこむように子どもたちの心が耕され「心」が「行動や言葉」に結実していくことにつながると考えている。

そのために重要となるのが、道徳教育の全体計画、重点目標、そして別業である。

子どもたちの豊かな心の育成を目指し、学校の重点目標を踏まえた全体計画、及び別業から考え、今回は自作教材の開発が有効であると判断した。また、本授業では、学校や子どもたちの実態や、地域の特性を考え合わせて教材をつくることで、児童、地域、目標をつなぐことよきよきに改めて気付くことができた。こうした一歩ずつの取組が、今後地域に対する感謝の気持ちや、それらを態度や言葉で示していこうとすることへの一助となることを期待している。

今後も子どもたちの豊かな心の育成を目指し努力と研鑽を重ねて参りたい。

### 【引用および参考文献】

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編  
【文部科学省】

道徳教育とは何だろうか

横山 利弘【暁教育図書】

研究紀要 能所一体

【上川管内道徳教育研究会】

平成24年度 佐賀県教育センター

個別実践研究

【佐賀県教育センター】